

## いま、学校部活動は大きな転換期を迎えています

～「豊岡市部活動の在り方検討委員会」の開催～

7月3日（月）、スポーツ関係団体の代表、文化・芸術関係団体の代表、学校関係者、保護者の代表で組織する「豊岡市部活動の在り方検討委員会」を開催しました。本委員会では、豊岡市立中学校における部活動の段階的な地域連携・地域移行や合理的で効率的な部活動の推進等、部活動の在り方について検討をしていきます。

### 学校部活動の地域連携・地域移行とは・・・

#### <学校部活動が抱える課題>

- ① 少子化による生徒数の減少で、チームを組むことや活動をするのが難しくなっている学校がある。
- ② 競技・活動経験のない部活動の指導や休日の指導・大会引率などが、教師にとって大きな負担となっている。

#### <部活動の地域連携・地域移行において国がめざす姿>

- ① 少子化の中でも、将来にわたって子どもたちがスポーツ・文化芸術に継続して親しむことができる機会を確保する。
- ② 地域の持続可能で多様なスポーツ・文化芸術を一体的に整備し、子どもたちの多様な体験の機会を確保する。



### －委員の意見から－

・少子化への対応を目的とした複数の学校による合同部活動と、教師の働き方改革を目的とした指導員派遣を同時進行していかなければならないのではないかと。

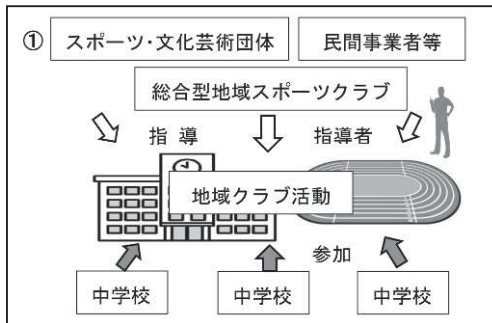
・学校の部活動を先生だけでなく地域の人も指導するという流れには賛成する。

・市内の団体で活動している人は、スポーツや文化・芸術を趣味として楽しんでいる方が多い。また、メンバーが減り高齢化も進んでいる。指導員として派遣できる人は、それほど多くないだろう。

・保護者としては、指導者の適性、事故やトラブルの際の対応、参加費の負担について心配がある。

### 国が示す部活動の2つのイメージ

#### ① 地域移行：地域クラブの活動に生徒が参加



#### ② 地域連携：部活動指導員が指導する部活動に生徒が参加



まずは、休日における部活動の地域連携・地域移行を地域の実情に応じて2～3年かけて進めていく。

## 学校をつくる主人公である生徒の声

## 「わたしたちにとって部活動とは…」

8月21日（月）、豊岡市中学校生徒会リーダー研修会を開催しました。この3年間は、コロナ禍で中止やオンライン形式での開催が続いていましたが、今年度は久しぶりに対面で開催することができました。市立9中学校から35名の生徒会メンバーが集まり、取組を発表したり意見を交換したりしました。

前半は、各校の生徒会活動を紹介し合いました。学校生活の点検、校則の見直し、ボランティア活動など、学校生活を自分たちでよりよくしていこうとする取組の数々が紹介されました。

後半には、中学校生活の1つである「部活動」について考えました。生徒たちは、4～5人のグループに分かれて、「部活動に対する思いや考え」、「休日の部活動が地域での活動になることについて」をテーマに、自分たちの思いや考えを交わしました。



### テーマ1：部活動に対する思いや考え

#### <よかった>

- 先輩・後輩、先生、他校の人と仲良くなれた。
- チームのみんなで1つの目標に向かう経験ができた。
- 体力・運動能力が高まって、心も強くなった。

#### <悩んだ・困った>

- 活動の選択肢が少なく、本当にやりたいスポーツができなかった。
- 部員同士や部員と顧問の先生との考え方が合わないことがあった。
- 練習時間が長く、勉強との両立が難しかった。

### テーマ2：休日の部活動が地域での活動になること

#### <期待>

- 他校や地域の人など、普段関わることが少ない人との交流が増えそう。
- 専門的に細かい技術まで教えてもらえそう。
- 活動の選択肢が増えそう。

#### <不安>

- 平日と休日で指導や活動方針の違いがあると混乱してしまいそう。
- 部活動への関心が減って、参加する人が少なくなるかもしれない。
- 活動の場所が遠くなると車での送迎が必要になるかもしれない。

メッセージ：「こんな部活動にしてほしい（社会・地域へ）」  
「こんな部活動を経験してほしい（後輩へ）」

- 生徒と先生の関わりがあり、先生の休日もある楽しい部活動!!
- 自分・仲間・ライバル・先生・指導者が一丸となって切磋琢磨!!
- 礼儀正しく、苦勞や楽しいことも含めて、周りの人に感謝できる部活動!!

